昭和三年八月十三日 第三種郵便物認可
昭和三年十月一日發行

磐城自治新報

發行日 一日十五日(毎月二回)
編輯印刷兼發行人 福島縣石城郡湯本町 箱崎義一
發行所 天王崎四四番地 磐城自治新報社 電話四〇番
紙代 一部金十錢送料共 廣告料 五號十二字詰一行金五十錢 場所指定金壹圓

昭和戊辰に際し【二】

箱崎　呑海

今や日本は思想國難を叫ばれ經濟國難を憂へられて居必ずしも國難といふ大袈裟な言葉を用ひるを當らずとしても袖手傍觀して止むべき時でない、試みに國家經濟の方面を一瞥致しませうか現に六十三億といふ内外債のために首も廻ぼらない狀態である、日本の人口を七千とすれば一人當九十圓づゝの借金を背負てゐる譯であるそれも六十三億で打切りこれ代上借金が殖えないといふことでもあるなら兎に角まだ其上に毎年三四億といふ輸入超過結局借金は殖えこそすれ減る見込みは立つて居ないのであるこうした時に我々國民はどうすればよいかまづ物慾を抑へ勤勉にして節儉出來冗費を省いて貯蓄しなければならぬ、それにもつと要用な事は働くといふことである、百丈禪師は一日爲さゞれば一日食はずとさへ敎へてある縱令巨萬の富をもつて居ても遊んで食べて居てよいといふ道理はない或はの料でないものはない、輓近社會主義的思想が次第に險惡となり共産主義ともなりサシジカリズムともなるに至つた助緣の一つとしてどうしても物質生活の浮華放縱をつゝしまなければならぬ、日本は今大切な瀬戸際に立つてゐる、思想に社會に政治に明日の大暴風雨が豫感されるかゝる風雲を叱咤し、かゝる怒濤に駕し新日本の新しき生命をよび建設すべき力は農家といはず、商家と言はず、大日本帝國臣民たる人は老年壯年青年少年男女の胸に燃えてゐる筈だ、明治維新を成名の青年達であつた無名の英雄第二の南洲第二の龍馬第二の山陽第二の松陰と各のり奮起せよ。『終り』

偶言

◎

至誠に出でたる吾人の活動の影と聲とは天地のフエルムに悠久にうつり、宇宙の平面圓盤に永遠に刻まれて其勢力は不朽不滅であることを樂しません哉

◎

眞面目なれ、眞面目になる程自信力が出て來る、眞面目なる程精神の存在を自覺する、天地の間に、神の前に自分が嚴在して居ると云ふ觀念は眞面目になつて初めて得らるゝ自覺である

◎

嘘は何で惡いかといふにそれは人間の社會生活に最も必要なる言語の成立を破壞するからである、人間社會は殆ど言語により成立されてゐるのだから其の反逆者たる嘘吐に對しては社會は悛嚴なる制裁を加ふべきである、考へて見ると嘘は眞實より六ケ敷い、眞實は即座に云へるが嘘には工夫と心配とが要る、容易で安全で但つ信用を博する眞實を使用せずして、工夫と心配を要し結局不利益で不信用となる、うそを使用する人が余りに多い、それにうそは實を手ぐりよせるからすぐばれる、うそと河豚汁は其場限りで祟りかなければ是程甘いものはないが、然し中毒つた最後血を吐かねばならぬ

◎

漬物は壓石が利かぬと味が出ない、苦勞を知らぬ人に情味がない

◎

富みて眞に富める人があり富みて猶心に貪しき人あり貧にしてなほ富める人があり、貧にして心に貧しき人がある、富みて眞に富める人たることが出來ぬれば寧ろ貧にしてなほ富める人たらんかな

「未完」

常磐線湯本驛前
電話●二十八番
湯本運送株式會社
荷主各位ノ御用ヲキヽヨリ日毎ニ多忙ヲキハメテオリマス
非常ノ御利用下サイ

平●四人乘合●貸切●
湯本間●倉●
尾子自動車部
平町●電話六四〇番

旅館 若松屋 植田町 電話五十三番
旅館 喜多の屋支店 植田驛前 電話五十五番
合資會社 大平組 土木建築請負業合資會社 代表社員 大平又太郎
天理教 菊田支部 教會 植田町 電話百二十一番
森合 齒科醫院 森合芳男
常磐線植田驛 常磐工業株式會社 社長 小野庄一
山際電力精麥合 植田町 電話五十八番
錦村消防組頭 星磯吉
大日本武德會福島支部植田分會劍道師範 藤田淺之助 植田町
田丸屋吳服店 植田町長 瀨米次 電話三十五番
植田牛乳舍 大野武春
福島縣染物業組合長 草野七五三之助 石城平町
植田藝妓家組合
新台販賣並ニ修繕 平和屋自轉車店 常磐線泉驛前
洋服の御用は 正札堂洋服店 平驛通り
鈴木染物店 平町 鈴木留五郎
電話七十七番 小松崎洗張店 平町 小松崎善四郎
なかや洋服店 平町 電話二〇三番
接骨院 宮本仁之助 平町
常磐線植田驛前 丸三運送店 電話二十七番
合資會社 運送店 小野保
桑原整骨院 平町
西洋洗濯所 永澤義一 平町壹町目
元磐城病院改稱 市原病院 電話一一四番
外科 産科婦 木村醫院 電話一六四番
旅館 山田屋 常磐線植田町 本館 別館 電話百十八番
親切本意 喜多野屋 常磐線植田町 旅館 電話六十二番

隠れたる功勞者

子弟敎育の爲めに 六拾餘年間一身を捧ぐ

故景雲吉田先生除幕式

石城郡湯本町大字關船景雲吉田敦和先生謝恩碑除幕式は去る九月拾六日同町諏訪神社境内に於て盛大なる除幕式を擧行相會する地方名士及び故先生の門人諸氏二百餘名午前十一時一同參列建碑建設委員長山崎與三郎氏の擧式の辞あり後諏訪神社々司金土重隆氏外五名の神宮故吉田先生令孫大平孃の手により除幕祭儀を擧行關口英助氏の工事經過報告委員長山崎氏の式辞湯本町長小泉三代喜全町會議員總代村上六平仝小學校長前川三省勿來町小林美啓諸氏の祝辞祭文演説遺族親戚總代の挨拶一同禮拜次いて委員長の閉式の挨拶あり引つゞき酒肴の饗應に各名士談論風發に時を過し午后四時閉會した。

式辞

故恩師景雲吉田先生ノ建碑竣工ヲ告ゲ茲ニ本日ヲトシテ除幕ノ式ヲ擧クルニ當リ舊門生諸子並ニ來賓各位ノ光臨ヲ忝フセシハ最モ欣幸トスル處タリ

嗚呼先生逝キテ茲ニ十四年歳月流ル、ニ随ヒテ景慕ノ念愈々切ナルヲ覺フ殊ニ昨昭和二年ハ時恰モ先生ノ十三週忌ニ相當スルヲ以此機ヲ逸セス聊カ報恩顯彰ノ微衷ヲ効サント舊門生胥ヒ謀リ建設委員三十六名ヲ擧ゲ建碑ノ企圖ヲ出ツ爾來一年有餘委員諸氏ノ奔走ト幸ニ多數同感諸氏ノ賛讓トニ依リ斯ク竣成ヲ告クルニ至リシハ誠ニ感喜ニ堪エズ

先生ハ夙トニ東都ニ遊ビ德川幕府ノ碩儒林家ノ門ニ入リ尋イテ神田ノ聖堂ニ學ビ多年螢雪研鑽經書ヲ始メ擴ク史傳諸子ノ渉獵シ造詣蕩蓄深ク其堂奥ニ入ル業成歸リテ舊平藩校ノ佑賢館ノ敎授トナリ尋イテ舊湯長谷藩校致道館ノ敎頭ニ招聘セラル明治五年廢藩後關船ニ屏居私熟ヲ開ク仝六年全國初メテ小學校ノ創設アルヤ隣村下湯長谷小學校々長ニ招聘セラレ勤續拾年間ニ渉ル仝十五年三月磐城磐前菊多三郡立平青年校ニ聘セラレ仝十七年仝校ノ縣立中學校ト改マルヤ之ガ敎諭ニ任ジ其後私立平英語學校ニ勤續仝廿一年退イテ關船ニ屏居私設明德館ヲ開ク遠近先生ノ高風ヲ仰ギ其門ニ入リ敎ヲ請フ者日ニ參集爾來責ヲ易フルニ至ル迄終始一貫專ラ地方子弟ノ敎養ニ努メラレ薰陶感化ノ功尠ナカラズ其敎ハ受ケシノ徒實ニ三千亦盛ナリト云フベシ惟フニ明治ノ初年磐城ニ在リテ碩學鴻儒ト仰カレシハ神林、室大須賀衣笠及ビ先生ノ五大家ナリシガ就中普ク地方敎化ノ上ニ貢献セラレシハ先生ヲ以テ其ノ最トス

由來漢儒ノ弊ハ古ヲ尊ビ今ヲ卑シミ頑迷固陋ニシテ迂遠ニ陷リ易キニアリ先生學ハ朱子派タリ雖心ニ王陽明學ヲ崇奉ス故ニ其敎フル所ハ徒ラニ文字ニ捉ハレ章句ニ拘泥スル僻見腐儒ノ亞流ニ非ズシテ能ク各自天賦ノ性ニ基キ之ヲ指導誘掖其蒙ヲ啓發シテ所謂經世有用ノ材タラシムルニ在リ若シ先生ヲシテ都門ニ在ラシメンカ大ニ其名ヲ成シ一身ノ榮達期スベカリシニ藏芒隱處分ニ安シ天ヲ樂ミ其生ヲ終ル其心点ノ高潔光風霽月ノ如ク眞ニ欽仰スベシ今ヤ敎化ノ陵夷道義ノ頽敗其極ニ達セシノ際ニ當リ景仰措カズ追慕止マズ敬虔ノ誠ヲ布ク所以ノモノハ先生ノ博學高德深ク諸子ノ肺腑ニ浸潤スルノ致ス所タラズンバアラズ

嗚呼仰ケハ仰ク程愈々高キ三凾ノ秀峰汲メハ汲ム程愈々深キ太平洋ノ水之ト均シク先生ノ敎化先生ノ高德ハ千古永ヘニ朽チズ

叙上一片ノ蕪辞以テ式辞トス

昭和三年九月十六日

吉田敦和先生建碑
建設委員長 山崎與三郎

式辞

恩師景雲吉田敦和先生彰德ノ建碑功竣リ茲ニ本日ヲトシ御遺族一門ヲ始メ貴賓門弟多數ノ御參列ヲ仰キ盛大ナル除幕式ヲ擧行セラル、ニ當リ不肖席末ニ斑スルノ光榮ヲ得タルハ頗ル欣幸トスル所ナリ。

先生ハ舊平藩ノ敎授ニシテ學殖深淵當時既ニ一頭地ヲ拔ク後湯長谷藩ノ儒官ニ聘セラレ專ラ藩内ノ子弟敎養ノ任ニ當ラレ濟々タル多士輩出ノ譽アリ廢藩後初等敎育中等敎育盡瘁セラル、コト多年其ノ功績ノ顯著ナルコトハ碑石ニ刻セラルレ人ロニ會炙スル所ノ如ク又一語ノ蛇足ヲ要セサルナリ。

後年當地ニ歸臥セラレ帷ヲ垂レ家塾明德館ヲ經始セラル、ヤ弟子雲集シ遠近子來シ其數三千頗ル盛大ヲ極メ一鄕風ニ化シ德ニ懷キ今ニ至ルモ猶穩健質實ノ遺風惠澤ニ浴スルノ甚大ナルモノアリ。

晩年更ニ山野ヲ開拓シ國遣利アルヘカラザルヲ唱ヘ自ラ桑茶樹ヲ栽植シテハ產業ヲ勸メ雜穀仙人米等ヲ耕種シテハ凶荒ノ備ヲ說キ勤儉ヲ講ジテハ治產ノ道ヲ敎ヘ鄕黨之カ爲メニ富ミ鄕人之ガ爲メニ輯睦ス彼ノ耕者ハ鍬ヲ投シテ墓畔ニ詣シ門ヲ過キルモノハ毎ニ衣帽ヲ正ス所謂近江聖人ノ如ク崇高ナル人格深淵ナル學德千歳尙ホ朽チサルモノアルモ亦偶然ニアサルナリ。

不肖曾テ贅ヲ先生ノ門下ニ執リタルノ一人トシテ今ヤ當町自治ノ局ニアルノ故ヲ以テ一言平昔ノ所感ヲ述ヘテ式辞トナス希クハ之ヲ諒セラレンコトヲ矣

昭和三年九月十六日
湯本町長勳八等
小泉三代喜

聞いて びつくり

◎磐崎村大字馬玉に其人ありと天下衆知の前村會議員前收入役吉田田子作君本社記者訪問の際不謹愼極まる暴言を頂戴したそうだ其前に御自分の腦味噌の入替でもして過去の非でも吊ふが貴下のため

「さようなら」

◎本社創刊に對し下湯長谷方面の織中〇〇氏は磐城自治新報に賛助をするなら鰹でも買つて食つた方がよいと成程名論ですな充分に養生でもして大風の時の備へでもしたらよいでしよう。

社會的信用判斷所

◎泉村前村議日清日露の勇士上遠野某と現村議員吉田某との大角力の勝負は行司久保木庄之助氏の取なしにして預りとなる村議と村議の角力は結果が大損議兩君の自愛を祈る

目出たい〳〵

△　△　△

磐崎村掃除デー

石城郡磐崎村では二十四日午前九時から同村小學校で衞生役員會を開き協議の結果毎月十五日掃除勵行デーとし清潔法に準じ大掃除を行ふことになつた。

入山自治會で 劍道部を組織す

石城郡湯本町入山採炭株式會社從業員に依り成る入山自治會にてはこの程全會に劍道部を設け部長竹原利助氏、根本、大内、管野、安孫子の諸氏幹事に任命され毎公休日勿論の事平日に於ても熱心に武術の練磨身心の鍛練を目的し練習をして居る。

政界餘談

正しき政治の曉鐘

代議士 比佐昌平

正しい政治、明るい政治を望むの聲は非常に多いがいつになつたら又どうしたらそういふ政治の行はれる事になるのかサアこれは國民としての大問題だネ

◆

正しい政治、明るい政治の反面には不正な政治暗らい政治がなければならない國民は先づ不正な政治、暗い政治を排除せねばならぬ言葉をかへて言へば惡を亡ぼす事によつて即ち善を打ち立てる事が出來る譯だ

◆

賴山陽の言葉に『眞は新なり』といふことがあるが明るい政治の根諦は眞に即した國民生活に立脚せねばならぬ

◆

火に燒かれても風に傷められても春風一度山野を訪れゝば永い冬の眠りから覺めた大小の草木は一齊に新芽を生じて生の行進曲を奏するのであるがそれが人目にもつかぬ道のべの小草であろうが亭々として天を摩する、大木であろうがその新しい芽の背後には十年二十年の間或は永い冬の間風雨と戰てきた歷史と嚴然として大地に張てゐる、その根とがあるのである古い幹と新い芽即ち『眞は新なり』と云はざるを得ないのであります

◆

悠々として二千五百年盤石の如くゆるぎなき我が國體の精華があつてこそ初めて日に新たにして日に新たなることができる、向上進取の治政が生れてくるのである、語を替えていへば古い根幹なればこそ力ある新しい芽は生じて來るのである

いよ〳〵普選の世の中となつてわが愛する祖國はすべての國民に國政に參與する事を要求してゐるサア此れからは正しく明るくそうして力強い政治によつて此の日本を興隆せしめる重大なる責任は選擧權の名によつて千三百万の同胞に結び付けられた

◆

同じ鐘の音も朝と晩では人の心に響き方が大變に違ふ夕べの鐘の音といふものは何となく哀音があるが曉の鐘は希望にみちてゐる

◆

我が光輝ある國家の上に正しく明るき政治を打ち樹てよとの曉鐘は今や鳴り響いているのである、あの希望に滿ちた響は普選の槌によつて今や勇壯につき鳴らされて居る

◆

眞實の生活とは天職に徹底する所にある大學の先生がノートを操り礦夫がツルハシを振り農夫が鍬をとるところにふるれば熱があり切れば血が出るような眞の生活はある

◆

この眞の生活を基調として新しき政治は生れねばならぬ。

今や吾々は國民大衆と手をとり合ひ吾々の意見を國政の上に實現すべくあの勇ましくも希望に滿ちた曉のかねを耳近く聞くのである。

東白河……大原……湯本……上遠野……小名濱間
乘合貸切 一般
高岡自動車部

常磐線湯本驛前
…材木店
…五番

東白河……大原……湯本……上遠野……小名濱間
乘合　貸切　一般
高岡自動車部
湯本驛前　電話五十七番

常磐線湯本驛前
㋳矢吹材木店
電話二十五番

御大典記念として 奉安庫を建設

湯本町有志の篤志

石城郡湯本町にては去る九月十七日の町會に於て御大典記念事業とし金壹千圓を計上全町榮田の高臺に奉安庫の建設を決議工事委員に鯨岡愿道、宮本政三、渡邊長作、上川才松、木村德三郎、小野忠三、矢吹莊司の諸氏當選從來工事の進陟に努力しつゝありしところ全町篤志家よりこの意義ある事業に對し且つ永年の希望を實現されることであるから是非共此際模範的奉安庫を建設したいとの希望から小泉町長の壹百圓寄附申出に續き入山採炭の五十圓品川白煉瓦の壹百圓學校職員一同の五十圓、關、水野谷部落の壹百圓等の寄附申出であり次で湯本無盡會社㋡運送株式會社、二本松電氣平銀行湯本支店等續々申出であるのでおそらくは縣下にほこる模範奉安庫の建設を見るであらうと。

御即位紀念臨時開帳 福一能滿虛空藏尊

二千有餘の信徒能滿寺境内に溢る

既報の通り石城郡磐崎村西郷能滿寺境内に安置しある日本三虛空藏の一なる福一能滿虛空藏尊の御即位紀念臨時御開帳は去る九月廿六日午前五時より湯本惣善寺住職權僧都森文男師外五名の僧呂により開帳式を執行す尊藏を拜すべく遠近より來る信徒二千有餘場外に溢れ非常に盛況であつた。

濱三郡土木請負業組合 幹事 前澤文太郎氏

君は平町の人本縣請負業界の巨人として期界に風靡して聲望隆々たり幼少より土木業に身を投じあらゆる艱難辛苦に遭遇し身を傷ふも顧みず豪放磊落武士的氣風を以て勇往邁進其巧空しからず當時期界の先覺者として知られたる前澤榮助氏の認むるところとなり、平町に於て現業を營み今日の成巧を致し今や濱三郡土木請負業組合の幹事とし社會公共の爲めに貢獻しつゝあり。

第二部庭球大會は十月七日

國有林野の委讓

折笠利一

吾國の總面積の大部分は山野である、この山林國でありながら、建築其他の木材を今尚諸外國から求めなければならぬとは遺憾に堪へない、如何に山國と雖も氣候土質の關係で適不適もあらうが第一の原因として其大半が國有林野に編入されて居る爲であらうと思はれる。明治三四十年頃當時の農林省では多大の國費を使用して植林を計畫されて居るが未だに經費倒れになつてゐる樣である、これは當時の御役人が營林の方針が誤られて居つた事は事實であらうそして營林事業と云ふものは御役人樣の手によつては經營は因難である、未だに以前の植林地が植木鉢にある小木の樣なもので成績の惡いと云ふ事が國有林野内では天然木の方が優良である、これ國家の爲め憂ふべき事でないか却而國有林野を委讓したらば其地方の人民は其處に永住してゐた經驗上地質相當の營林事業をなすによつて益々成績は向上して諸外國より輸入する木材は減少されるであらう、國家は急に委讓も困難とすれば當分半官半民の經營にしたらどうかと思はれる、これは恐らく小林地帶に住む農民諸君は同感であらう。

最近地租委讓とか義務教育費國庫負擔とか盛んに國利民福の增進にと御盡力下さる政治家各位には感謝に堪えないが何れにしても財源の捻出に困難して早急には實行が困難でないかと思はれる、國有林野の委讓なれば左程六ヶ敷しくなく行くではないか思ふ。そして又我國山業發展上多大の稗益と思はれるので私は國有林野の委壤が痛切に感ずるのである。

七面鳥の飼育に就て

七面鳥の飼育が前途有望なる生産事業であることは今更贅言を要しませぬ、我國の現在では七面鳥の飼育は外國に比して非常に遲れているのであります、或人は七面鳥を普及して生産が過剰になつたら困りはせぬかと問はれたのであります成る程事情に通せぬ質問としては、一應ご尤のことゝ思ひます、現に私共も最初にそんな考を持つてゐたのであります。然るに丁度昨年三月の中頃東京の某有力者を介しまして東京に於て七面鳥の食料としての捌け口を調べて貰いやした所、潰し賣りとして一日平均三百羽以上の供給を何年間として確實に契約して與れたならば引受けると云ふことでありました、夫れは廣い東京で唯の一軒丈の話であります、これから推して考へても、日本の六大都市の一流のホテル、すき燒店洋食店等にて七面鳥料理が流行する、日には一日三千羽や四千羽の供給では足らぬとも足りる樣なことは決してありませぬ。一日に三百羽と云へば一ヶ年に十万八百羽であります。今そんな澤山の七面鳥がどこに居りますか、七面鳥を飼育せんと志ざされる方はこの邊の數字に就てよく御熟考を願いたいのであります。私の考へでは此處三年や五年間は潰し賣りをする樣な鳥は到底出來得ざるものと信じます、と同時に七面鳥の飼育都鄙の別なく如何なる所にても又誰にでも出來る事業で殊に家庭に於ける奥樣方や孃樣方の娯樂半分に飼育されても相當に有益な事業でありますから家庭の副業として七面鳥の飼育をお勸めするのであります。

偖而七面鳥を飼育する目的は勿論其肉と卵とを得るのであります、要するに養鷄を目標とすれば間違はありません、而して養鷄と比較して利益の点を擧げて見ます。鷄の初生ヒナを育成して産卵期即七ヶ月間に成鳥平均六百匁に達し百匁四十錢と假定して貳圓四十錢となります、七面鳥は此期間に平均二貫目に達し百匁五十錢と假定して十圓となります、此發育期間に於ける餌手間代等は兩者共殆んど同樣で收入に於て七面鳥は四倍となります。之れはどちらも一羽の比較でありますが國家の大生産から見積りますと鷄に於ても百万の生産に對し、七面鳥に於ては四百万の生産となりますこの一例を見ても如何に七面鳥の飼育の有利であるかを窺ひ知れませう、殊に成育となれば七面鳥は鷄よりも粗食であり少食であります、其上七面鳥は五年間体重を增すものであります。之は單に潰し値段より割出したのでありますが七面鳥は目下の處僅かの數より飼育されて居ませぬから爰三年や五年間は全國的に普及時代でありまして種禽とし種卵として賣却されますから着實に經營されますれば年額二十割以上の利廻りとなることは容易であります

七面鳥分讓場　飯塚光重

本縣聯合青年團 体育大會 福島市に開催

來る拾月廿一日福島市に於て本縣聯合青年團体育大會を開催本郡よりの出場撰手次の如し。

百米　湯本町西田武夫
四百米　小名濱町齊藤安之亟
仝　千五百米　草野村片寄周平
補員　好間第一泉美一
一萬米　神谷村澤田武夫
走幅跳　大野村會田源一
走高跳　鹿島村鈴木三郎
仝　草野村坂本知重
砲丸投　好間第一志賀重郎
八百米　湯本町西田武夫
仝　江名町坂本新一郎
仝　藤原高木常彌
リレーレース　藤原芳賀紋次郎
仝　湯本町宮本武
仝　湯本町佐久馬清吾
劍道　高久村藁谷久太郎
仝　飯野村須藤肇
柔道　平町青天目源一郎
仝　好間村荒川米四郎
仝　泉村山口鋭太郎
相撲　好間第一松田純一
仝　小名濱町笹原直義

內科小兒科　院長　醫學博士　難波睦（院長毎日診療）
副院長　醫學士　五十嵐雄二
內科部長　醫學士　伊吹彰二
外科　內臟外科　整形外科　レントゲン科　專門
外科部長　醫學士　氏家憲介
毎日手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科　女子泌尿科
產婦人科部長　醫學士　レントゲン科　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
共濟會員　診察無料
一般患者　初診壹圓
藥局長　吉本孝平
本院主事　賀澤忠治
電話七二番
獨逸シーメンス、ユニバーサル、ヘリオドル。
×光線新設
診斷治療（毎日）
主任　醫學博士　難波睦
磐城共濟病院

人を使ふ道

呑海

人を使ふ道は人間の道の中の一つである、凡そ人間社會の一人として人にも使れす人をも使はないものは殆ど無い、君主と臣民との關係、主人と雇傭人との關係資本家と勞働者との關係長官と部下との關係等は皆其中に收められる、君子や主人や長官が臣民に對し雇傭人に對し勞働者に對し部下に對する道は如何に行つて行くべきものかそれを代表するものは即ち君臣の道であろう君臣の道は孔子の教訓の中にも多く説かれて居る。

孔子の教訓を記した書物の中で最も重要なものは論語である、論語の中に魯の定公といふ君が孔子に君が臣を使ふ道を問うた時に孔子は答へて『君は臣を使ふにる禮を以てす』と言つたことが記してある、禮といふのは相手の人格を尊重することから出來るものである君主が臣下に對し驕り高ぶつたり無理のことを要求したり亂暴な言語を放つたり手荒な擧動をしたり何等の同情もなく何等の親切もなく壓迫や戰制でひきゐて行かうとするのは臣下を使ふ道を知らないものである、一家の主人としても一つの役所の長官としても此の如きの態度を以て下のものに對する時は必ず大きな騒動を引き起し遂には一身一家一會社の衰微と滅亡とを來すものである。

此の孔子の言葉は簡單であるが非常に力强いものと考へられる。

相手の人格を尊重して各人が自己を建設して行かうとする心を滿足させ禮に叶つた取扱をしようとするには慈愛と聰明な判斷と實行の元氣とが無ければならぬ。其内でも慈愛の心は最も重要なものである。

次には聰明な判斷がなければならぬ、無智であつては公平な處置が出來ない使はれる人から自分の價値や自分の立場を充分に理解して貰ひたいのが山々である、自分の價値を誤解されたら自分の立場に同情され、されなかつたりすれば失望して其の果は怒り怨むことになるのである、使はれ者に失望させ怒らせ又は怨ませる樣では人々に忠實な勤勞を求めることが出來ぬ、そこには反抗があり、爭鬪があたりである、それ故に人を使ふ者は少しの油斷もなく自分の聰明を磨くことに努力せねばならぬ、自分流の理窟で固まつて居る人は何でもかんでも押通さうとする。そこに恐るべき錯誤が伏在するのである單に抽象的なる理論は實に危險である實際の事情に根據を有する者でなくては衆人を心服させる公平な判斷は下せないそれ故に古への明君は如何なる人の言ふ言葉にも耳をかたむけたのである

「つづく」

磐城炭礦株式會社
小野田坑事務所
木村德三郎
里見參吉
酒井嘉七
御代豐吉
磯上忠馬
磯上延由
三部芳太郎
組長
鈴木辰之助
齊藤榮光
渡邊豐介
渡邊藤吉
長倉組長
大門留松
田村甚七
二澤源次
長倉醫院
院長
會田政次郎

小野田坑指定商案内
大内爲三
齊藤長治郎
寺門慶治郎
小野重彦
松井熊藏
三浦康太
倉澤惣十郎
後藤アキ

湯本驛ヨリ一里
自動車人力車便アリ
鑛泉
姥の湯
上湯長谷 若松猪八郎

湯本驛ヨリ一里
自動車人力車便アリ
鑛春木屋
織内慈平
泉吉田屋
吉田 巳代太郎
旅館喜樂屋
高橋國太郎

化學應用
諸車製造並ニ修善
那須理吉
湯本町

學用品
湯本町
岩瀨屋藥店
青木元次

學校用品
本間商店
本間勘大郎

肥料各種
荒物雜貨各種
太和田屋商店
小泉菊彌

湯本町
小野精米所
小野健之助

寫眞の御用は
沼知寫眞館
湯本表町

金銀各種時計
眼鏡並ニ萬年筆
附屬品一式
ラジオノ親玉
湯本町電話四十三番
菊地時計店

石碑彫刻燈籠各種
馬目石材店
馬目隆義

銘酒御代一番
醸造元
御代武兵衛
磐崎村

各國最新型製靴販賣
栗原森之助
電話十六番

和洋酒類販賣
卸商
田丸商店屋
田子稔

荒物金物雜貨各種
小野太市郎商店
小名濱町

荒物雜貨
卸商
吉田恭平商店
湯本町電話五十八番

四ツ倉町
伏見稻荷神社
教師 飛田なか

銅鐵板細工所
雨樋一式
橋本春吉
湯本町

建築請負
小野忠三
電話五十番

炭礦諸材木料請負
材木商
佐藤三平

炭礦坑木請負
志賀清

和洋御菓子卸商
渡邊
湯本町停車場前

各種新聞販賣
西丸豐造

洋服裁縫
並ニ附屬品一切
泉屋洋服店
中島清江
湯本町驛前

平和削節製造元
鈴木道太郎商店
常磐線湯本驛前

◆共同主義の金融機關
僅かの掛金でまとまる資金
御大典記念
新會員大募集
今秋の御大典の記念事業
貴下の家庭にお奬めする
……貯金にも融通にも有利な……
……無盡の中で一番よい湯本式……
◆ナゼ不景氣ですか？
それはアラユル金融機關が、地方の金を集めて、みな中央へ持ツてゆくからです。そうして地方の金廻りが惡くなるからです。
◆民衆の金は民衆へ！
地方の金は地方で融通したい、地方の金まはりをよくして不景氣の風をおッ拂ひたい。不景氣の追拂ひ役は、湯本無盡につとめさして下さい。
◆絶好の記念事業！
町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したいと思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭では何をお選になりますか。
◆不景氣の追ッ拂ひ策！
湯本無盡は、貯蓄にも融通にも有益である上、中央集金の弊を打破して、地方の金融を潤澤にするものであります、御大典記念にはゼヒ湯本無盡へ、御加入下さい。
……營業案内呈上……社員參上說明……
大藏省免許
福島縣石城郡湯本町二二五
湯本信用無盡株式會社
電話四七番
振替仙臺七九六四番

常磐線湯本驛前
電話二十八番
湯本運送株式會社
平……四ツ倉……湯本間
一乘合 一貸切 一船
尼子自動車部